

「イチロー観」の変遷に関する研究

—メディアによる評価とイチローの発言との関係に着目して—

木原 浩

キーワード：イチロー、評論、伝記、語られるイメージ、共犯性

I. はじめに

70年以上続くプロ野球の歴史の中で、名選手あるいはスター選手と呼ばれてきた選手はあまたいる。「イチロー」という選手もその一人である。ただ、特筆すべきは、イチローは日米両球界において野球殿堂入りが濃厚となる程の成績を残し続けているという点だ。

そこで本研究では、「どのような存在として必要とされているのか」というイチローのイメージを「イチロー観」として定義し、そのイメージの変遷に着目したい。そこから、卓越したプロスポーツ選手が人々に与える社会的な影響について、さらには、社会が求める理想のプロスポーツ選手像、メディアとの共犯性について、考察することができる。

II. 先行研究の検討

イチローとメディア報道に関する学術論文には、川島論文が挙げられ、短期間における、イチローに対するメディアの評価とイチローの好成との関係の変容という点で示唆に富むものである。

しかし、長期間に渡っての両者の関係を追ったものは皆無であるため、本研究を行うこととした。

III. 研究方法

イチローの自著は存在しない。したがって、研究には第三者によるイチローに関しての著書を用いる。

本研究では、2001年から2011年までのメジャーリーガーとしてのイチローである。この11年間のイチローとメディアとの関係を追っていく中で、この対象期間を以下の三期に区分する

ことができた。

1) 【第一章】

メディアが作り出したイチロー像がイチロー自身を先行する、デビュー1年目の2001年から3年目の2003年のシーズン。

2) 【第二章】

シーズン最多安打記録を樹立し、メディアのイチロー像をイチローがとらえたメジャー4年目、2004年のシーズン。

3) 【第三章】

自らの意思をメディアが追って報道するようになった2005年から2011年のシーズン。

IV. 史料批判

前述の通り、現在に至るまでイチロー自身が野球人生を振り返るような自伝は出版されていない。よって、イチローを題材とした以下の評論、伝記等を一次史料とする。そのため、これらの文献を史料として利用するには、慎重な史料批判が必要となる。

同一事項に関する複数の筆者の表現の揺らぎや、各文献の執筆意図を踏まえつつ、論拠とする。

V. 第一章「メディア報道に苦しむイチロー」

第一章では、ルーキーイヤーの大活躍により築き上げられたイチロー像が、イチロー自身の発言を先行する状況が生じる。そして、その状況にイチロー本人が苦悩していた1～3年目のシーズンに言及している。

VI. 第二章「メディア像をとらえたイチロー」

第二章では、シーズン最多安打の世界新記録を樹立した4年目のシーズンにスポットを当てた。ルーキーイヤーの活躍を上回る大活躍をし

たイチローが、メディアが築き上げたイチロー像を完全にとらえたシーズンに言及している。

VII. 第三章「揺るぎない自信を得たイチロー」

第三章では、シーズン最多安打の世界記録樹立後も継続して活躍を続ける5年目以降のシーズンにスポットを当てた。結果を出し続けることで、メディアが生み出したイチロー像をイチロー本人が凌駕し、イチロー本人がメディアが紡ぎだすイチロー像に大きな影響を与え、イチロー像を形成させた5年目以降のシーズンに言及している。

VIII. 結論（考察）

本研究は、2001年から2011年までのイチロー観の変遷を、イチロー自身の発言とメディアが付与したイメージとの関係に着目しつつ、検討してきた。その結果は以下のようにまとめられる。

イチローは、前人未到の領域に挑戦しながら、期待や批判、自分の強さ弱さに向き合いながら成長していった、卓説したプロ野球選手であった。ただしトップスターの仲間入りを果たした当初は、メディアが作り上げたイメージの大きさと、そのイメージの一人歩きに苦しめられた。多くのファンは、メディアが作り上げたイメージイコールその選手であるという認識を示す。イチローの事例でいうと、巨額の年俸とファンの期待、そして一方では冷やかな視線を背に、1年目にMVP獲得を含む大活躍を見せた。メディアはイチローを「天才」と呼び、イチローイコール天才であるという認識を人々に広めた。誰よりも野球が好きで、今の自分を血のにじむような努力で確立したイチローは、そのイメージに激しく抗い、強い嫌悪感を示した。

そして、迎えたシーズン4年目の2004年に「シーズン262安打」という世界記録を達成する。この時も、人種問題や内野安打の多さ、四球の少なさなど、いわれのない批判を多々受けたが、それでも自分と向き合い、前人未到の世界記録を樹立した。そして、ここでメディアが築き上げたイメージ像に並び、抜き去ることと

なる。このように、世界記録樹立といった、スターへと駆け上がる契機となった活躍を上回る活躍をすることで、自分だけではなく、周囲からも成長を認められ、より一層強い尊敬を集めるようになる。

そして、そこから先はイチローが結果を残し続けたために、メディアが生み出したイチロー像を、イチロー本人が凌駕するようになる。そしてイチロー本人が、メディアが紡ぎだすイチロー像に大きな影響を与え、イチロー像を形成するようになる。

以上の結果から、現代社会における卓越したプロスポーツ選手とメディア報道との関係の特徴については、次のように評価することができるだろう。イチローのように、誰もが認める卓越性を獲得した時、その選手は、ついに自らの思うようなイメージをメディアと共に築き上げ、本当の自分を理解させることができる存在へと昇華するのではないだろうか。メディアが一面的なイメージを付与するだけではなく、選手がそのイメージに抗うだけではない。現代社会においては、卓越したスポーツ選手とメディアは共犯関係にある。イチローの事例は、こうした複雑な関係性を示唆するのである。

IX. 残された課題

周知の通り、イチローは現役の選手である。そして、昨年の2011年のシーズンにおいて、彼の象徴ともいえるシーズン200本安打の記録が10年で途切れた。いくら彼我の努力の人であろうと、今後、引退までには成績が下降線を示すであろう。その中で、イチローとマスメディアの共犯関係は維持されるのか、または変化していくのかという点に関しては、本研究において触れることができなかった。今後も、イチローとメディアの関係性に注目しながら、彼に関する記事に目を通していきたい。